

第97回全日本選手権大会 号外

ごっちゃん



関西大学 体育会
漕艇部 機関紙

右より 藤井(2)・今井(4)・川崎(4)・鴨田(3)・山田(3)



関大初の快挙! Final-B 進出 男子舵手付きフォア 総合8位

令和元年5月23日(木)〜26日(日)に戸田ボートコースにおいて第97回全日本選手権大会が開催されました。関西大学からは男子舵手付きフォア、軽量級男子ダブルスカル、女子シングルスカルが出場致しました。男子舵手付きフォアは総合8位、女子シングルスカルは準決勝進出を果たしました。今大会においての入賞は関大初の快挙となりました。大会期間中、遠方より多くの先輩方や保護者の皆様に応援にお越し頂き、有り難うございました。



96代 COX 川崎 登夢

97代 B 山田 悠光

98代 3 藤井 京吾

「感謝」
・OB・OG並びに保護者の皆様、いつもご支援、ご声援頂き本当にありがとうございます。皆様の力無くして私達はこの結果を残すことができませんでした。
・監督、コーチ陣の皆様、いつも厳しく、時に優しく私達を指導していただき本当にありがとうございます。

・マネージャーのみんな、いつもサポートありがとう。みんながいつも全力で支えてくれるから、僕達がいっきりにボートに集中できて強くなれたと思う。これからもよろしく。一緒に強くなろう。
・クルーや選手みんな、まじでよくやってくれた。練習も今まで一番しんどいと思うけど、これからも頑張ろう、もっと強くなろう。声しか出せない自分にもいつも付いてきてくれてありがとう。

「なぜ強くなれたか」
・新コーチ本田さんの力。多くの新しい知識を授けてくださった一方、基礎的な事の重要性、礼儀の重要性を再認識させていただきました。練習前と練習後に川に礼をする。感謝の気持ちを表現する。今までできていなかった「当たり前」を全員で徹底できました。
・艇や道具を大切にすることを。僕が一番徹底してきたことです。みんなが協力してくれ、当たり前のように艇を大切に扱い、道具があることに感謝する習慣が作れました。
・チームの一体感。朝レの決勝で惜しくも敗れた時にマネージャーも悔し泣きしていた。全日本入賞を決めた時は嬉し泣きしてくれた。僕の記憶では今までこんな事無かったと思う。悔しさ、嬉しさを全員で共有できるチームになったんだと思った。選手は毎日真剣に練習してるし、それ以上にマネージャーが全力で毎日支えてくれていることに感謝以外の言葉はありません。本当にありがとうございます。どこにも負けない絆があるチームを作るう。

さあ、次はみんなでもっと良い景色見ようぜ。



戸田の観客の前でレースができたと思います。戸田で結果を残したい、戸田でインパクトを残したいと個人的に思っていたので、今回の全日本選手権8位入賞という結果は少しは戸田でインパクトを残せたのではないかと思います。また、このような貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございます。来年は是非メダル争いができるようにします。

96代 2 今井 健太

全日本総合8位入賞でした。自分自身の戦績、関西大学の男子でも初の全国レベルの決勝に行けたことは感謝でしかない。けれど、予選、敗復、準決、順決の4つのレースで最後が一番悔しかった。中盤まで1位か2位を争っていたはずが、まさか藻に引っかかって最下位まで落ちていくとは思っていませんでした。少しでも名を刻もうとしたけれど、そう簡単ではなかった。練習以外での善い行いを一つ一つこなしていって運を高めていく。最終日までは一歩前の努力さえすればそこまで遠くない。

97代 S 鴨田 稜之介

まず始めに、全日本選手権という大きな大会で8位という結果を残すことができ、とても嬉しかった。僕は今までフォアに乗る機会があまりなかったため、不安な面もあったが、今回の大会でこのような結果を残すことができたことは、自分の自信になったとともに、新たな可能性を見出すことができたのではないかとと思う。しかし、結果としては8位という戦績を残せてはいるものの、もっと上を目指せただけではないかという悔しさが多く残るレースだった。今回の大会を通して得た自信や悔しさなどを今後の糧とし、自分がチームの中心となり、関西選手権、インカレでしっかりと結果を残していきたい。





1.43秒を埋めるためにはどうしたらよかつたのか。五百メートル毎のタイムを0.37秒速く漕いでいた。スタートスパイトをあと3本多く漕いでいけば。タラレバはあまり好きでは無いのでこれくらいで。ただ、毎レースごとにプランをいじつても適応するんだ、と感じた。攻め切らなければいけないレースでここぞという時に攻められない私とは昨シーズンでお別れしたのかもしれない。

この大会ではOBさんに艇を貸していただき練習をさせていただいた。多くの方の支援のもとで成り立っていると再確認した。ありがとうございます。



軽量級男子ダブルスカル
96代 B 岡田 孟志



戸田に入るまでの1週間の神崎の追い込みは水面のコンディションなどでうまくいかなかった。そして、不安が残るまま戸田入りした。予選ではスタートは自信があったがさすがに全日本、思ったように出ることはできなかった。そしてラストスパイトであげるが中電と1.5秒差で2位だった。予選は全体で5位のタイムで最終日には行けると思っていた。だが全日本はそこまで甘くなく、敗復で敗れた。敗復で負けた日体大も含め、戸田勢は急なコンディションの変化の対応、立て直しの上手さ、そしてなにより勝ちに対する執念がはるかに自分より上だと感じた。今回の敗北でより一層インカレ決勝に行くという気持ちが強くなったと思う。



サポートメンバーより一言

私が今回の全日本選手権大会で感じたことは、今年こそインカレ最終日という目標を達成する事ができるかもしれないという期待感です。今回の試合ほどワクワクさせてもらった試合はありませんでした。勝つ試合の楽しさを実感することができました。今回の遠征は少人数で臨みましたが、インカレではもっと多くの部員の皆と最高の景色が見たいと強く思いました。課題はまだまだまだたくさんあると思うので、最後まで全力で選手たちと向き合いサポートしていきたいです。

96代 トレーナー 竹田 光玖



最近関大ボート部では、ボートのことを真剣に語り合い議論している場面が当たり前に見られるようになっていて、真剣に競技に向き合っていることをとても感じる。ボートの実力は、まさに日頃からどれだけボートのことを考えているかに比例する。

今回の全日本選手権のチャレンジ、結果として念願の最終日のレースは出漕した選手たちの頑張りはもちろんだが、選手達だけの頑張りだけでチャレンジできたのではない。出漕選手達はわかっているだろう。

今後のレースにおいて、もつと部員全員が本気で全力になれば本当に信じられない結果を示すことが可能だ。この全員とは全選手だけでなくマネージャーやスタッフ、先輩達まで巻き込んだ全員だ。領木、山本昌奈先輩も交えて関大旋風を巻き起こしていこう！

監督 高宮 憲浩



戸田に足を運んでくださったOB・OG、保護者の皆様ありがとうございます。こんなにも大声で応援して、足が震えるほど嬉しくて泣けるほど悔しい試合に携わられたこと、本当に感謝しています。少人数サポートで頼りなかったかと思えますが、一緒に戦わせてくれてありがとうございます。大きな舞台で関大のかっこいい姿を残してくれたみんなが誇りです。次はもっと良い景色を見られるよう、今回発見した課題を活かしてチーム一丸となって頑張ろうね。

96代 マネージャー 吉浦 えみり

男子コーチ 本田 智之

1月よりスタッフに加えて頂き約5か月、早くもこうして皆様に学生の努力の成果をお届けできることを嬉しく思います。そして学生諸君、ついこの前まで多くの部外者であった私についてきてくれてありがとうございます。今回の結果は君たちの努力と集中力の賜物です。コーチ就任より取り組んできた3点(基本動作の徹底・練習の質の確保・声を出すこと)がようやく高い次元で実現できはじめ、私自身「やるべきことをやる」だけで自然と結果がついてくるのを実感した次第です。一方、上を見れば府大は同種目で、A決勝進出、朝日レガッタで敗れた同志社大は80+で関東勢に完敗しています。我々はこの満足することなく、まずは関西選手権までに関西No.1の座を確立し、最終目標のインカレで全クルーが戦えるチームを作り上げていく必要があります。学生たちのチャレンジは始まったばかりです。引き続き温かいご指導、ご支援を頂戴できればと存じます。今後とも宜しくお願い申し上げます。